

高等学校 2年生 保健体育科学習指導案

令和 6 年 12 月 12 日
高等学校 2年 25 名

1 単元名 大単元「生涯を通じる健康」 小単元（避妊法と人工妊娠中絶）

2 単元について

生涯の各段階においては、健康に関わる様々な課題や特徴がある。生涯にわたって健康に生きていくためには、生涯の各段階と健康との関わりを踏まえて、適切な意思決定や行動選択及び社会環境づくりが不可欠であることを理解するとともに、生涯の各段階や労働における健康課題の解決に向けて思考・判断・表現できるようにする必要がある。

このため、本内容は、思春期、結婚生活、加齢の各段階において、健康、行動、生活などに課題や特徴があること、また労働の形態や環境の変化に伴った健康及び安全の課題があること、それらを踏まえ、自他の健康管理、安全管理及び環境づくりを行う必要があること、労働に関わる社会資源などを適切に活用することなどを中心に構成している。

3 単元の目標

知識・技能	生涯を通じる健康について、生涯の各段階における健康課題解決に役立つ自らの適切な対応及び社会環境づくりが重要であることの基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解することができるようとする。
思考力・判断力・表現力等	生涯を通じる健康について、生涯の各段階における健康課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表現できるようとする。
学びに向かう力・人間性	生涯を通じる健康について、生涯の各段階における健康課題解決に役立つ自らの適切な対応及び社会環境づくりが重要であることについて関心を持ち、学習活動に取り組もうとすることができるようとする。

4 生徒の実態と指導観

クラスの雰囲気としては落ち着いており、取り組むべきことに対してはしっかりと取り組むことができる。しかしながら保健の授業には体育ほど興味を持って取り組む生徒が少なく興味関心を引き付ける指導の方法が必要だと考える。子供を産み育てる喜びや妊娠を望まない時に取り組むべきこと、望まない妊娠をした場合どうするかなどについて一方的に伝えるのではなく生徒自身に考えさせながら対話方式で授業を進めてことで生徒の興味・関心を引くことができるのではないか。

5 単元及び学習活動に即した評価規準

健康安全への知識・技能	健康安全についての思考力・判断力・表現力等	健康・安全について、主体的に学習する態度
<p>生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。</p> <p>労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解している。</p>	<p>生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。</p>	<p>生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

6 指導と評価の計画

時間	主な学習内容	知識	思・判・表	学び
1	ライフステージと健康			
2	思春期と健康			
3	性意識と性行動の選択			
4	妊娠・出産と健康			
5	避妊法と人工妊娠中絶 ・家族計画とは ・避妊法とその選択			
6	結婚生活と健康			
7	中高年期と健康			
8	働くことと健康			
9	労働災害と健康			
10	健康的な職業生活			

7 本時の展開

① 本時の目標

- ・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。
- ・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。

② 展開

段階	学習活動【学習内容】	指導上の留意点 ◇評価
導入8分	<p>1. 挨拶、出欠確認・ワークシートを配る</p> <p>2. 前回の復習 →思春期（小学校高学年から高校生年代）は性意識に目覚めはじめ、性行動をする</p>	<p>○授業開始の挨拶を行い、欠席者・忘れ物の確認。</p> <p>○前回の授業の復習で思い出し、家族計画へと繋げる。</p>
展開37分	<p>3. 【家族計画の意義について理解する】</p> <p>発問；結婚と聞いて思いつくものはありますか？</p> <p>・個人で考える ・グループで考える</p> <p>予想される生徒の反応： 指輪、子ども、婚姻届</p>	<p>めあて：家族計画への意義や人工妊娠中絶の心身への影響について考えよう。</p> <p>・ワークシート①に記入させる。</p> <p>・妊娠しやすい年齢として女性が20歳前後から25歳～35歳ぐらい、男性が40歳までが適した時期と言われている。</p> <p>・妊娠しやすい時期から見て、どの時期で子供が欲しいのか、そして、子供の人数、産む間隔で欲しいのかをパートナーと一緒に考えることが大切で子供のをつくる計画を立てることを家族計画という。</p> <p>・環境や自分と相手の意思を考えて子供を望まないと考えた場合、確実な避妊をしなくてはいけないことを伝え避妊法に繋げる。</p>

<p>4. 【避妊の意義について学び、方法や種類について理解する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンドーム、ピルの話 ・緊急避妊法 <p>・避妊させることで将来への繋がり、大切さを再度確認させる。</p> <p>5. 【人工妊娠中絶について理解する】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避妊は女性の健康だけでなく子供の健康を守ることにもつながることを理解させる。 ・ワークシート②に記入させる。 ・生徒から出た意見から避妊法であるコンドームと低用量ピルについての説明し理解させる。 ・タイミング法や膣外射精などの避妊法は間違った避妊法であることについて説明し、理解させる。
<p>発問；出産に必要なものは何か？</p> <p>予想される生徒の反応： お金・周りの人からのサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中絶が行われる背景を理解する ・資料を見て、現在の中絶率を理解させる ・母体に与える影響について ・中絶が認められる条件について ・母体保護法について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート③に記入させる。 ・人工妊娠中絶とはどのような手術なのかの説明を行い、子の命を奪う行為であると理解させる。 ・性行為を行えば新たな命が生まれる可能性があることを理解させ、妊娠を望まない場合は避妊を行う必要があり、避妊を行わず、妊娠した場合人工妊娠中絶を行う可能性があることを理解させる。 ・人工妊娠中絶とは女性にとって身体的、精神的に大きな負担があることについて理解させる。 ・母体保護法があることを説明し、理解させる。 ・特別な理由があれば、限られた時期

	<p>までは人工妊娠中絶を行うことが母体保護法によって認められているについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母体保護法は、1948 年に制定された ・22 週未満までなら可能 ・妊娠 22 週目以降の胎児は母体外においても生存できることを理解させる。
A 評価 本時の学習を踏まえて自分の考えを発表したりワークシートに書き出したりしている。 C 評価 ワークシートが書けていない。 C 評価の生徒への手立て 教員が個別指導を行いサポートする。	<p>A 評価 本時の学習を踏まえて自分の考えを発表したりワークシートに書き出したりしている。</p> <p>C 評価 ワークシートが書けていない。</p> <p>C 評価の生徒への手立て 教員が個別指導を行いサポートする。</p>
まとめ 5 分	<p>6. 本時のまとめ</p> <p>発問；避妊についての考え方は変わったか、感想に書きましょう</p> <p>7. 挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りを行う。 ・ワークシート④に記入させる。 ・性交すれば妊娠する可能性があることをもう一度伝え、避妊の重要性について理解させる。 ・ワークシートを集めます。

8 板書計画

本時の目標		
家族計画の意義と適切な避妊法と人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について理解する。		
◇		
<u>コンドーム</u> 避妊効果はやや低い、など	人工妊娠中絶 身体的負担：不妊の可能性 精神的負担：一生心の傷	まとめ 性交すれば妊娠する可能
<u>低用量ピル</u> 避妊効果が高い、など		

9 資料(ワークシート)

「避妊法と人工妊娠中絶」

教科書 p84-85

学籍番号 :

名前 :

家族計画の意義と避妊法

①結婚といったら？

②避妊法とは (空欄を埋めよう。)

コンドーム

方 法：性器に装着し、精子が膣内に侵入するのを防ぐ方法。

メリット：安価であり、手軽に入手できる。()にも効果的

デメリット：装着ミスや破損、外れるなどによる避妊の失敗が起きる可能性がある。

失敗率：() ~ () %

低用量ピル

方 法：() と () の入った錠剤を毎日服用することで、排卵を抑制する。精子の子宮内膜を着床しにくい状態にする。

メリット：女性自身で行え、正しく使用すれば失敗が非常に少ない。

デメリット：持病などによって服用できない場合がある。()がある。

失敗率：() ~ () %

人工妊娠中絶

③出産に必要なものは何か

(感 想)